

令和4年度第1回郡山市環境審議会（書面審議）において、頂きました主な意見に対する本市の考え方は以下のとおりです。

なお、それぞれの主な意見の最後に①、②・・・と記載されている番号は、「郡山市環境審議会委員からの意見要旨に対する本市の考え方」に記載している番号と対応しています。

取り組みの柱1「地球環境にやさしいまちづくり」に関する集約意見と本市の考え方

1. 市内の温室効果ガス排出量に対するクリーンセンターからの排出量の割合について (①) 本市の考え方

クリーンセンターの温室効果ガス排出量は、郡山市内の温室効果ガス排出量（別紙1）における「廃棄物分野」に含まれており、温室効果ガス排出量及び全体に対しての割合は以下のとおりです。

非エネルギー起源 CO₂：63,952 t-CO₂、メタンガス：2.9 t-CO₂、一酸化二窒素：2,075 t-CO₂
合計 66,029.9 t-CO₂（市全体の2.4%）

2. 運輸部門の温室効果ガス排出量の増加原因と今後の取組について (⑥、⑪、⑱) 本市の考え方

運輸部門の温室効果ガス排出量は、自動車及び鉄道の排出量から算出しており、鉄道の排出量は減少、自動車の排出量は増加しています。自動車の温室効果ガス排出量は、保有台数に車1台あたりの排出係数を乗じて算出していることから、郡山市内における自動車保有が増えたことが排出量増加の原因となっています。

なお、基準年度（2013年度）比で2019年度は人口が増加しており、家庭用の自動車保有が増加していると考えられることから、引き続き、公共交通や自転車、徒歩への転換を促すモビリティ・マネジメントを推進してまいります。

<自動車保有台数比較（2013年度→2019年度）>

- ・軽乗用車：57,617台→69,433台（20.5%増）
 - ・乗用車：136,839台→141,137台（3.1%増）
 - ・普通貨物車：9,007台→9,403台（4.4%増）
 - ・特殊車：5,207台→5,232台（0.5%増）
- ※軽貨物車、小型貨物車、バスの台数は減少

<人口比較（2013年度→2019年度）>

328,267人→332,853人（1.4%増）

※東日本大震災の影響で2012～2015年度は大幅に人口減（2011年度は339,019人）

3. 市の事務及び事業による温室効果ガス排出量の減少の主な要因について (7)

本市の考え方

クリーンセンターでの一般廃棄物焼却量が減少したことが主な要因であると考えられ、2013年度の一般廃棄物焼却量は162,904 t（温室効果ガス排出量換算 76.62 千 t-CO₂）、2021年度は131,845 t（温室効果ガス排出量換算 61.97 千 t-CO₂）となっており、温室効果ガス排出量換算で14.65 千 t-CO₂ 減少しています。

なお、一般廃棄物の減少の要因については、下記のように考察されます。

- ・2013年度：2011年の東日本大震災で発生した一般廃棄物の処理がピークを迎えている。
- ・2021年度：2019～2020年度の水害時の一般廃棄物処理も完了し減少傾向となっている。

4. 電力消費量に占める再生可能エネルギーの数値及び基準年度に対する増減率について (8)

本市の考え方

以下のとおりです。

太陽光発電量：2013年度 35,389 千 kWh 2019年度 103,877 千 kWh
193.5%増加

消費電力量：2013年度 1,033,695 千 kWh 2019年度 900,801 千 kWh
12.9%減少

5. 市有施設に対する再生可能エネルギー設備の導入について (2)

本市の考え方

今後は郡山市気候変動対策総合戦略を踏まえ、公共施設への再生可能エネルギー設備の積極的な導入を図る施策を展開してまいります。

取り組みの柱2「資源が循環するまちづくり」に関する集約意見と本市の考え方

6. ごみ排出量の削減や再生利用率の向上のための具体的な取組について

(3、9、10、12、14、16、17)

本市の考え方

ごみ減量等に有効な施策や、再生利用の手法などを多角的に検討し、現在の事業等を継続するとともに、新たな仕組みづくりを進めてまいります。

7. ごみ処理について、市民が担うべきゴミ収集上の役割を郡山市が肩代わりしていると考えられることについて (13)

本市の考え方

最終処分場残余量のひっ迫、ごみ焼却施設の老朽化などによる、ごみ処理施設更新費用のほか、人件費等にも多額の費用を要していることから、今後、ごみ減量等に有効な施策を多角的に検討し、仕組みづくりを進めてまいります。

8. コロナ禍で市民に3Rを浸透させる取組について

(4、5、19-1)

本市の考え方

令和2年度のごみ集積所に排出された資源物は、前年度比約1.2倍に増加しました。これは、コロナ禍における巣ごもり需要により、容器包装プラスチックが増加したことや、接触機会の低減のため集団資源回収が控えられ、その分ごみ集積所に排出されたことが影響したと考えられます。今後もあらゆる機会を通じ3Rの推進の啓発を続けてまいります。

9. 行政や町内会による資源回収の機会が減少しているのであれば、それに替わる手立てについて (15、19-2)

本市の考え方

近年は、SDGsの推進により、小売店等においてポイント付与による店頭資源回収が広く行われております。

今後におきましても、様々な回収拠点をご利用いただき、リサイクルを推進していただくよう意識の向上に努めてまいります。

10. 郡山市の実情が全国の自治体比べどうなのかという踏み込んだ分析が必要ではないか。(20)

本市の考え方

本市は中核市の中でもごみ排出量が多い都市であるため、中核市でごみ排出量の少ない八王子市や前橋市などと情報交換を行うなど、研究を進めてまいります。

取り組みの柱3「自然と共生できるまちづくり」に関する集約意見と本市の考え方

11. 間伐について (21)

本市の考え方

間伐を推進し、森林の適正な整備・保全を図ります。